

放送メディアをメインにマスコミを操る安倍政権 「大本営発表」の始まりは「戦争出来る国」の仕上げ!?

講師 **永田 浩三 さん**

(武蔵大学社会学部メディア学科教授)



放送法をタテに「問題番組を放送する局がでてきたら、免許を取り上げることができる」と、高市総務大臣が国会で放送局に脅しをかけたことが、問題になりました。放送法は国民の表現の自由を守り、民主主義の発展に資するためにつくられたものですが、これを逆手にとったもので、「白を黒」と言いくるめた典型です。

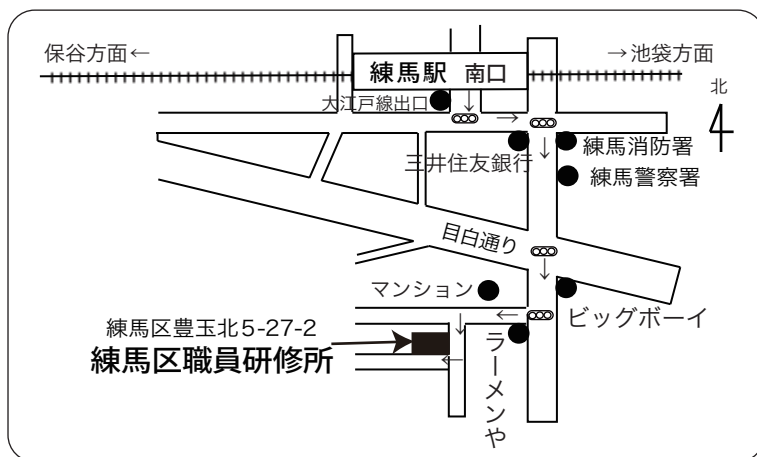
今回講演いただく永田教授は、2000年に行われた「女性国際戦犯法廷」をスペシャル番組で取り上げたために、当時の安倍官房副官庁から“番組改ざん”を迫られ、そうした圧力に抗した当人です。今回の講演では、当時の経験をベースに安倍政権による現在のNHK会長の萩井起用問題、NHKニュースの偏向報道、さらにはマスコミへの攻撃・懐柔策など、さらには市民として、ジャーナリズム精神を発揮させるためのマスコミへの対応策などを縦横に語っていただきます。

追記：練馬・文化の会は2008年から5年間「テレビみつがしわ」という番組を10本、武蔵大学と共同制作しJ:COMで放送していますが、そのほとんどの作品は永田教授が学生を指導してつくられました。このうち2009年に制作された文化の会会員の小岩昌子さんを描いた「私は風船爆弾をつくっていた」は「地方の時代映像祭」で奨励賞を受賞しました。

5月28日（土）

午後2時～3時

練馬区職員研修所



・永田教授のプロフィール

1954年大阪生まれ。1977年NHK入局。制作した番組は芸術祭賞など数多の受賞作。2009年から武蔵大学教授。以降「ベン・シャーンを追いかけて」「NHKと政治権力」「奄美の奇跡」などの著作。最近作の「隙だらけ 好きだらけ日記抄 練馬・江古田からメディアを見つめる」は、当日会場で定価(500円)で販売。

資料代 300円

主催：練馬・文化の会一連絡先 森田彦一（3951-4276）

—当日午後3時以降は文化の会の総会・懇親会が同じ場所で行われます。